

C 生物育成に関する技術

イチゴの容器栽培の資料

☆イチゴにまつわる豆知識

イチゴ属の植物は世界各地に分布し、ヨーロッパでは古くから野生のイチゴを摘んで食べる習慣がありました。1629年、アメリカ東部や中部に野生するバージニアイチゴがイギリスに伝わり、1715年、南米チリのチリイチゴがフランスに伝わりました。18世紀後半にイギリスでこの2つのイチゴの交雑が行われ雑種の育成に成功しました。今のイチゴの原型はこの時に生まれたものなので、種類としての歴史はまだ200年ほどしかない果実ということになります。現在、私たちが食用にしているイチゴとは異なりますが、実は『日本書紀』や『枕草子』に「イチゴ（古称はイチビコ）」の記載が出てくるそうです。分類はバラ科で、主な栄養分はビタミンC・E、カリウムなどです。旬の時期は、品種や栽培方法によって違いますが、12月～5月です。

（「AJINOMOTO PARK」より）

☆イチゴの容器栽培

< 必要な道具・資材など >

イチゴの苗



培養土



肥料



ペットボトル（2L）



不織布



< 植えつけ完成写真 >



容器の作り方

- ① 2Lの空のペットボトルを真ん中でカットする。
※カッターで切り込みを入れて、はさみで切ると安全！
- ② カットした下のペットボトルの両側面に水ぬき，空気ぬきのための窓をあける。
※2～3cmの正方形の窓！
- ③ 30cm四方の不織布を用意し，端を4～5本のひれになるように切る。
※ひれは，水を吸い上げるために必要！
- ④ カットした上のペットボトルをさかさまにする。ひれを口から出し，不織布をペットボトルの内側にはる。
- ⑤ 上部の余った不織布を折り返して切りそろえ，テープ等で留めて完成。

苗の植えつけ

- ①先に培養土を入れ、水をかけてなじませる。
- ②植えつけるときは、浅めに植える。クラウンは出しておく。
- ③ランナーの反対に実を付けるので、植えつける方向を考える。
- ④最後に苗の周りに、肥料を混ぜた培養土を入れる。

※クラウン：イチゴの根茎部分。

※ランナー：ランナーと呼ばれるツルを育てて植え付ける。

管理で気をつけること

- ①日の当たるところに置き、ある程度の寒さ（冬の時期）を与えないと花芽は分化しない。
- ②マルチシートを敷くと、保水や保温にもなる。
- ③枯れた葉は取る。カビや病気の原因になる。1回に1枚だけ取り、一度にたくさん葉を取ると苗が弱る。
- ④1か月に1回程度、追肥する。
- ⑤花が咲いたら、筆などで、人工授粉する。

栽培スケジュール

- ・10月頃・・・苗の植えつけ
- ・10月～1月・・・管理（水やり、日当たり、追肥、枯れ葉取りなど）
- ・1月～3月・・・管理、人工授粉、収穫